

児童・生徒の現状・課題

- ・落ち着いて授業を受けること、与えられた課題に対して積極的に取り組むこと、以上の2点については概ね良好である。
- ・自身で課題設定し解決する学習、複線的に個別で取り組む学習については、消極的な生徒が少なくない。



学び続ける力を育むための重点目標

- 個々の生徒に学習を委ねる場面を設ける。
- 生徒自身が課題設定する場面を設ける。
- 振り返りを次の学習に活用する場面を設ける。



具体的な手だて①

授業者が知識を伝達する場面と個々の生徒が自ら知識を活用する場面を明確にし、生徒が各々の学習に取り組めるように単元を構造化する。

具体的な手だて②

家庭学習ノートを活用することで、生徒自らが達成する目標や追究する問いを設定し、課題解決のための取り組みを習慣化する。

具体的な手だて③

毎時間、本時の学習を振り返る場面を設定し、理解度や進捗状況を自ら確認、修正しながら次時の学習に活用できるようにする。



児童生徒調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	86.0	90.0	
②家庭学習ノートを活用している。	59.1	75.0	

教員調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	85.0	90.0	
②授業では、学習目標の達成や学び方等について振り返る場面を設定し、児童生徒が達成感を味わったり、次の目標をもったりできるようにしている。	90.0	95.0	

校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫

- ・朝の打ち合わせスライドを活用し、日々の実践や意見、相談を日々共有できるようにする。
- ・教員各自が工夫できた授業を周知し、授業を公開する雰囲気醸成することで、授業を互いに見合う機会をつくる。

総括(5月)

昨年度は、研究指定校であったことから、教員の授業改善に対する意識は高まっている。しかし、生徒のアンケートの結果を見ると、自身で課題設定し解決する学習、複線的に個別で取り組む学習については、消極的な生徒が少なくない。「選択肢6の視点」を取り入れ、段階的に「学びのプロセス」を伝えることで、学年進行とともに自ら学ぶことができる「自立した学習者」を育てていく。

総括(1月)